



富士のちからまち

山

や

ま



小山町町勢要覧 2012

言さのちらまぢ

やま



町制施行100周年記念 町勢要覧 発刊にあたって

平成24年（2012年）は、大正元年（1912年）8月1日に六合村と菅沼村の合併で小山町が発足してから100年という節目の年であり、町民の皆さまとともに町制施行100周年をお祝いできますことは、誠に感慨深く、大変光栄なことであります。

100年という歴史を振り返りますと、関東大震災や幾多の風水害、また、太平洋戦争などの試練を乗り越えながら、富士紡績の発展とともに栄えてきた小山町は、昭和30年に足柄村、翌31年に北郷村、須走村と合併し、現在の形となりました。あれから既に半世紀以上の歳月が流れ、社会情勢の変化とともに町の状況も大きく変わってきております。

町制施行100周年という節目にあたり、「富士をのぞむ 活気あふれる 交流のまち おやま」の実現に向け、富士山をはじめとする豊かな自然とともに、金太郎生誕の地にふさわしい元気なまちづくりを、行政と町民が一体となって進めていけるよう努めてまいります。

この町勢要覧は、町制100周年の記念誌として、小山町の過去・現在の姿をお伝えし、次の100年へとつなげていくために作成したものです。皆様にご高覧いただき、私たちが愛する小山町を理解していただく一助になれば幸いです。

小山町長 込山正秀

小山町

町勢要覧

町制施行

100周年記念誌

目次

- 2 … 小山町長メッセージ
- 4 … 100人の笑顔
- 8 … 富士のあるまち
- 12 … 金太郎伝説
- 16 … 第4次小山町総合計画
「富士をのぞむ 活気あふれる 交流のまち」
- 18 … 豊かな自然あふれるまち。
- 22 … 健やかで、安らげるまち。
- 26 … 誰もが輝く、いきいきとしたまち。
- 30 … 手と手をつなぐまち。
- 34 … おやまの歴史
- 46 … 議会と町政
- 47 … 行政機構図、姉妹町ほか
- 48 … 町民憲章
- 49 … 町章、町の木・鳥・花

表紙題字：岩田明倫さん（坂下）

百年だから 百人の 笑顔。

百年だから百人の笑顔。
たくさんさんの笑顔を、
見たいから…。
100年目の小山町に住む、
100人に登場して
いただきました。
ここに、一人ひとりが
「おやま」です。





百人 刻む 百年の 足跡。

百人で刻む百年の足跡。
たくさんさんの足跡が、
ありました…。
100年前を身近に
知っている人から、
今年生まれた赤ちゃんまで。
これを見ている皆さんも
「おやま」です。





富士のあるまち

世界文化遺産登録へ

平成19年1月、「富士山」は日本の世界遺産としてユネスコへ推薦する候補を記した「暫定リスト」に登載されました。それは、富士山が雄大さ、気高さ、美しさなどを基盤とし、信仰や芸術を生みだした山として、世界にふたつとない価値を持っているからです。富士山の価値を構成する小山町の資産を紹介します。



富士浅間神社

木花開耶姫

富士山の神様「木花開耶姫このはなぐくやひめ」を祭神としています。須走口登山道の基点となる神社で、富士講信者が多く立ち寄り、33回を区切りとする登拝回数などの記念碑が約80基残されています。

宝永の噴火

宝永の噴火（1707年）では大きな被害を受けましたが、再建され（1718年）修理を重ねながら現在に至っています。この宝永の噴火で須走村には約3m以上の火山灰が蓄積し、未曾有の被害を受けました。しかし、幕府（関東郡代の伊奈半左衛門忠順）の援助もあり須山口や大宮・村山口よりも早い復興を成し遂げました。

富士講

江戸時代後期において、江戸を中心に「富士講」が隆盛すると、須走村には江戸をはじめとして全国から道者が訪れました。富士講では登拝の回数を重ねた人ほど尊敬を受け、境内にはその回数などを記録した多くの講の石碑が残っています。

西暦八〇七年 社殿造営

平成19年（2007年）には、御鎮座1200年式年大祭が執り行われました。



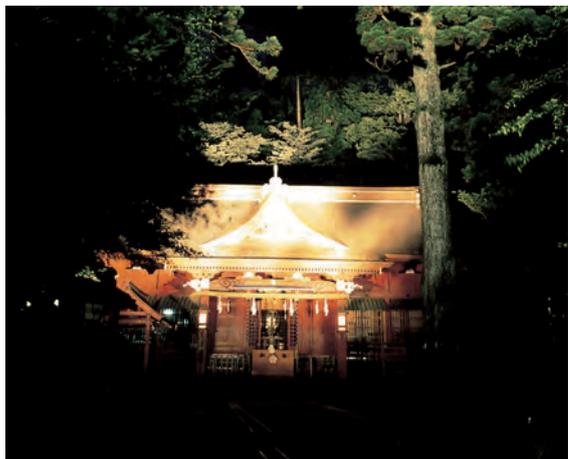


た。その後、社殿の享保年間の部材をそのまま活用した修復工事が施工され、現在は町指定文化財に指定されています。

須走口登山道

須走口登山道は富士浅間神社を基点に、現在の四合目付近の「御室浅間神社」、五合目の「古御岳神社」を経て、八合目で吉田口と合流し、山頂の久須志岳に至ります。六合目からは、浅間銘を有する最古の懸仏が出土して、室町時代初期には登山道が開けていたことが推測できます。登山道での役銭や山頂部の噴火口である内院への賽銭の一部は、富士浅間神社や須走村が得ることになっていました。

現在は「ふじあざみライン」を利用して、標高約2000mの須走口五合目まで車で行くことができます。



富士のあるまち

日本のでっぺんに登る

昨今の登山ブームで、富士登山客も年々増えています。富士山の登山道は5つあり、小山町は標高2000mの須走口を構えています。

須走ルートは森林限界が高く、珍しい高山植物が楽しめます。五合目以上は、国立公園の「特別保護区」「特別名勝」に指定されています。

富士浅間神社で山開き

須走登山道の基点は富士浅間神社。毎年7月1日には、富士山開山式が盛大に行われます。須走本通りは、地元須走の保育園、幼稚園、小学校、旅館組合などのパレードで盛り上がります。



富士登山道で見られる道しるべ。富士山の景観をそこわないように統一されています。

須走地区は標高約800mの高地であり、相模、駿河、甲斐三国の中継地として栄えました。富士登山の玄関口として、旅館や民宿などが多数あります。

緑豊かな須走登山道

富士山にある5つの登山道で、最も緑豊かなのが須走登山道。須走口五合目から歩き出すとすぐ「古御岳神社」があります。古御岳神社の祭神は、大山社命このはなまぐさやひめで、木花開耶姫の父とされています。

標高2700mまでの樹林帯は、オン



日本のでっぺん、富士山頂に並ぶ山小屋。
7月～8月の富士登山シーズンは混雑します



8月の富士山須走登山道。毎年多くの登山客が須走口から「日本のてっぺん」を目指します



砂走りを一気に駆け下りる

タデやイワツメクサなどの植物に恵まれて傾斜も緩やかです。
また、須走登山道は、富士山の東側を登るため、どこからでも壮大な御来光を拝むことができます。
昭和天皇が摂政宮当時（大正12年）、また皇太子殿下が裕宮殿下当時（昭和63年）に、須走口から富士登山されています。

ダイナミックな砂走り

須走下山道はダイナミックな「砂走り」が楽しめます。砂走りは、七合目の下から砂払い五合目まで約3kmを、ほとんどまっすぐに下る豪快な下山道です。

砂走りは砂れきの積もった急斜面で、一歩で2mほど下れます。

金太郎伝説

足柄山の麓、鮎沢川をとりまく自然。

やさしい里の人々。

これらに包まれて育った坂田金時こと、

足柄山の金太郎は、町の英雄。

私たちが誇りにしている伝説です。

おやまの伝説として語りつがれてきた「足柄山の金太郎」が一躍時代のスポットライトをあびたのは昭和の初めのことです。

時代の要請で地域の教育力発掘が大きく叫ばれたこのころ、当時、成美小学校校長を務めていた古見一夫先生の『坂田公時の研究』が昭和6年、国民文学社から世に出ました。翌年には、甘露寺住職の深谷博道師の名著『金時を語る』が金時宣揚会から出版されました。こうした人々を中心に、ふるさとの伝説金太郎を広めようという運動が盛り上がりました。文部省制定修身教科書には「金太郎」が取り上げられ、その誕生地が「小山」であることも指導書に明記されました。

一方、金太郎生誕の地、中島では、昭和9年、金太郎が生まれた家と言われる金時屋敷跡に金時神社が建てられ、金時公園も造られました。そして、若葉五月を期して「金時まつり」が盛大に行われるようになります。

現在では5月3日に「富士山金太郎春まつり」として、金時神社式典や子どもわんぱく相撲などが催されています。

まっかな赤ん坊

むかし、京都から来た八重桐という名の山姥が、中島の里に住むようになりました。

ある日の金時山中、八重桐は夢の中で、赤い龍と結ばれ、赤ん坊を宿しました。

山をおりと、白い着物一枚で滝に打たれ、お腹の赤ん坊の無事を祈りました。

月満ちた五月のある日、八重桐のお腹から、大きな産声と共に、まっかな体の男の子が生まれました。

子迎えの夕日

赤ん坊は金太郎と名づけられ、お乳をよく飲み、丈夫に育っていききました。

金太郎の遊び場は、山や沼。屋敷のある中島から生土へおり、八重山の峰伝いに足柄峠を駆け登ると、富士山が麓から大きく見えてきます。

金太郎はここから眺める富士山が大好きでした。

山では、けものたちが待っています。クマと相撲を取ったり、けもの同士で相撲を取らせたりして遊んだあと、お母さんが持たせてくれたおにぎりをほおばりました。

日が暮れる前に、薪たきぎを取ると、峠をおります。生土まで来ると、八重桐が金太郎をいつも待っていました。

夕焼けて赤く染まった道を、ふたり手をつないで屋敷へ戻るのでした。



金時屋敷 中島地区

中島に「坂田」と称する小字があります。坂田には3軒あって、その中の1軒が坂田公時の生まれた家であると言ひ伝えられています。

屋敷は山のすぐ裾にありましたが現在は下の段に移転し、元の屋敷は「金時屋敷」と呼ばれてきました。

昭和9年、この屋敷跡に金時神社が建てられ、現在は公園になっています。園内には、金時の産湯に水を汲んだ「ちよろり七滝」、金時が登って遊んだ「金時杉」(二代目)、金時母子が深く信仰した「第六天神社」などがあります。



遊女の滝 小山地区

駿河小山駅の南側の大沢林道沿いで、足柄峠へ向う途中にあります。

母・八重桐が、お腹の中の金太郎の健康を祈願して、この滝に打たれていました。



金時山 一、二、三メートル

金時山は、箱根火山の外輪山でイノシシが鼻を空へ突き出したようなかっこうをして、箱根連山の上にそびえています。「猪鼻ヶ嶽」と呼ばれていましたが、金時がしばしば遊びに登ったことから「金時山」と呼ばれるようになりました。

山頂には金太郎が、死んだ猪を祀った猪鼻神社があります。また、金太郎がいつも登っては遊んだという八畳敷きくらいの平らな大岩「遊び石」や、クマと相撲をとった時、踏み割ってすべらせてしまったという「踏み割り石」などの話が残っています。





八重桐の心配

金太郎は大きくなってくると、八重桐も知らない遠くの山へも出掛けるようになってきました。

ある時、金太郎が山から帰って来ない日がありました。

崖から落ちたのか、けものに襲われたのか：八重桐は心配で、その晩も、次の日も泣いて過ごし、三日目、金太郎が無事に帰って来ると、金太郎の真っ赤な丸顔を両手ではさみ、今度は嬉し泣きました。泣き過ぎて、目もまぶたも赤く腫れあがり、ちくちく痛みました。

金太郎は申し訳なく思い、その目を治すために、箱根の温泉へ八重桐を連れて行き、湯治をさせました。

季節が変わる頃、八重桐の目はすっかり治りました。金太郎は母に心配を掛けないように、薪取りや畑仕事に今まで以上に精を出し、体も心も大きく育っていききました。

お別れの桜

都の武将源頼光が下総から京都へ帰る途中のこと。

足柄峠にさしかかると、不思議な赤い色をした雲を見つけました。雲を目指して山道を進むと、金太郎親子に出逢いました。

頼光の家臣は金太郎を大変気に入り、八重桐もまた金太郎を武将にしたいと思っていましたから、金太郎は頼光について都へ行くことになりました。

金太郎は、山に一人で残る母がさみしくないと、

猿待合 小山地区

小山から足柄峠へ登る途中に、猿待合と呼ばれる小字があります。これは、金太郎が金時山へ登る時にサールと待ち合わせたところです。

沼子の池 湯船・柳島地区

この池に水浴びに来ていた金太郎が大きな緋鯉を見つけ、池に飛び込んで抱きついたところ、驚いた緋鯉は空高く跳ね上がりました。これ



が、5月のこいのぼりに金太郎が描かれる由縁になりました。

爪切地藏 竹之下地区



箱根の姥子うばこの湯で目の病を癒やした母の八重桐とともに、帰途についた金太郎が足柄峠のお地藏さまを思い出して、石の面を爪で彫ったものです。

頼光対面の滝 足柄地区

金太郎が初めて源頼光と対面した滝です。足柄駅の東側から地藏堂川沿いに林道を歩きます。



金太郎のふるさとMAP



屋敷に山の桜を一本植えて行きました。春には花が咲いて、八重桐をなぐさめてくれることでしよう。山のけものたちにも別れを告げました。

都へ行った金太郎は、頼光の四天王の一人としてたくさんの手柄をたて、日本中にその名をとどろかせたということです。

金太郎年表

西暦	元号	金太郎の出来事	金太郎の年齢
956	天曆10年5月	小山町中島で元氣な産声をあげながら誕生	1歳
966	康保3年	金時山にて熊と相撲を取り見事大勝利	11歳
976	天延4年3月1日	柳島の沼子池で大きな緋鯉を発見し捕獲 その際に空高く跳ね上がり、後の鯉のぼりのモデルになる 母の湯治のため、箱根姥子温泉に通う 足柄峠で源頼光と出逢う 力量を認められて家来になる	21歳
990	永祚2年	坂田金時に改名 京へのぼり、渡辺綱・ト部季武・碓井貞光らと共に頼光四天王に名を連ねた 酒天童子を征伐 その後も全国をまわり、鬼や賊を倒してまわった	35歳
1010	寛弘7年12月15日	賀茂の祭で初めて牛車に乗り、車酔いでフラフラになる 筑紫へ向かう途中、勝田（岡山県勝央町）にて、重い熱病にかかり亡くなる	55歳

金太郎終焉の地 岡山県勝田郡勝央町

九州の賊を征伐するため頼光と四天王は、寛弘7年（1010年）、筑紫（現在の北九州市）へ向かう途中、作州路美作で大雪にあいました。

勝田庄（現在の岡山県勝央町）で仮城を造り、滞在中、坂田金時は重い熱病にかかり、頼光や四天王の手厚い看病を受けましたが、そのことなく、12月15日亡くなりました。



くりにから 栗柄神社
坂田公時の霊をおまつりしています。

金時終焉の地と称され、その墳墓と神社のある岡山県勝央町。

金時が取り持つ縁で、昭和48年11月24日、同町と姉妹縁組を結びました。毎年10月上旬には、勝央町最大のイベントとして「金時祭」を開催しています。

勝央町は、岡山県の東北部に位置し、人口およそ11,500人、面積54.09平方キロメートル。中国山脈の主峰那岐山の南にあり、北部は穏やかに傾斜する丘陵が起伏し、中南部は町を南北に貫流する滝川に沿って開けた自然豊かな町です。町の中心部「勝間田」は、かつて出雲往来でにぎわった美作7宿のひとつとして知られています。

INTERVIEW

町民インタビュー



『金太郎』
鈴木 聖也くん
(宿)

今年5月に行われた、第48回富士山金太郎春まつりの相撲大会で優勝しました。「好きなスポーツはサッカーやマラソンです」との答えながら、どんなことにもがんばって挑戦している聖也くん。お父さんの励ましを受けて、相撲も一生懸命練習し見事、御殿場小山の代表として県大会にも出場しました。

今後の目標は来年1月の町内一周駅伝大会とのこと。寡黙に、ひたむきに取り組む姿は、まさに「金太郎」です。

富士をのぞむ 活気あふれる

交流のまち

おやま



—— 小山町は、町民にとって、心から大切にできる町。富士山が美しく、水がとてもおいしいから、米や野菜もおいしく、自然豊かである。一人ひとりが、明るく生活できる生き生きとした町。こんな素晴らしい町、小山町はわたしにとって心から自慢できる大切な町です——（小・中学生の作文から）

まちづくりの将来

町は「第4次総合計画」を策定するにあたり、町の将来や、まちづくりをテーマに、小学5年生と中学2年生から作文を募集しました。どれもが、町のことを真剣に考え、希望にあふれる内容でした。

総合計画は、まちづくりの指針となる大切な計画です。第4次総合計画は、平成23年度から平成32年度までの10年間の計画期間として「自主自立」「健康中心」「協働・共創」を基本理念に、将来像を「富士をのぞむ 活気あふれる 交流のまち おやま」としました。

日本の象徴「富士山」のある小山町。富士山とその周辺の自然環境をはじめとした豊かな恵みに抱かれています。また、町内には新東名高速道路や国道などの交





通機能とともに、これらを活かす都市機能が整いつつあります。

小山町に住む人が主役になり、町民相互の交流を高め、富士山のある豊かな環境の中で、心豊かで活気のある交流を深めていくまちを目指します。

この将来像「富士をのぞむ 活気あふれる 交流のまち おやま」を実現するため4つの基本目標を決め、さらに35の基本施策を設定しました。町民の皆さん、企業、行政がそれぞれの役割と責任を果たしながら、協働して活気あるまちづくりを進めていきます。

基本目標

1 便利で快適なまち

(環境・都市基盤)

2 安全・安心なまち

(健康・福祉・危機管理)

3 いきいきとしたまち

(教育・文化・産業)

4 計画推進のために

(広域行政・行財政運営・協働)

豊かな自然あふれるまち。



第4次小山町
総合計画から

①



恵まれた環境を守る

雄大な富士山の豊かな自然環境の恩恵を受けている小山町では、身近な環境に対する意識を高め、環境保全に努めています。環境を守っていくためには、環境負荷を軽減して良好にする必要があります。年々増えるごみ処理は重要で、平成23年度の年間排出量は7,970tでした。小山町のごみ処理は、燃えるごみ、資源ごみ、不燃ごみに分別収集されています。燃えるごみは、御殿場市・小山町広域行政組合によるRDFセンターで、不燃ごみは生土不燃物処理場で終末処理されています。な

お、燃えるごみの処理は、平成27年度から御殿場市板妻地先に建設される「新ごみ処理施設」で焼却処分される予定です。

人と自然が調和する

地域の豊かな自然や歴史的名所などの地域資源を守り、活用しながら、郷土愛を高め、交流人口を増やしていくことが必要です。小山町の誇れる風景である富士山や河川、田園、足柄峠や金時山などを生かした魅力ある景観を創造していきます。

公共交通の充実

町内には沼津〜国府津を結ぶJR御殿場線が8.9km通っています。この御殿場線は、昭和9年に東海道本線から変わったもので、駿河小山駅と足柄駅があります。

平成23年度の駿河小山駅利用者数は20万2,243人（1日平均553人）で、足柄駅利用者は17万2,025人（1日平均470人）です。

小山町内のバス路線は、富士急行



- ① サンショウバラをもとめ富士箱根トレイルを歩く
- ② 雪をかぶった富士山と水掛け菜
- ③ 駿河小山駅から足柄駅間を走るJR御殿場線
- ④ 富士登山シーズンのマイカー規制時のシャトルバス

による路線バス9路線のほか、町が運行している無料の「町内巡回コミュニティバス」の5ルートがあります。コミュニティバス（3台）は、1年間で延べ約3万人が利用しています。高齢化社会を迎え、公共交通機関の必要性が高まっています。民間の路線バスの本数が減ったり、廃止されたりする中で、学生のための運行助成も行っています。

清らかな水 豊かな水

小山町では、良質で豊富な地下水を農産物をはじめ工業用水や生活用水などに利用することで、地域産業が発展してきました。水資源は貴重な自然資源であり、地域の財産です。採取と保全のバランスを取り、有効に活用していきます。

安全な水・ 適切な汚水処理

快適な町民生活には、水の安定供給と汚水処理は欠かせないものです。水需要の増大に対応できるように

に、水源の確保、水の安定供給を進めていきます。平成23年度の町営水道使用量は、日量9、678^mでした。

河川の水質保全を図るために、平成11年に須走地区で下水道が供用開始になりました。汚水だけを処理場に運ぶ分流式の下水道です。また、下水道のない区域には、合併処理浄化槽の設置を奨励し、補助金を交付しています。

- ① 小山町の夏の名物は鮎沢川の「おやま DE どんぶらこ」
- ② 平成23年4月に開駅、富士山頂に一番近い道の駅「すばしり」
- ③ 新東名開通前のふれあいイベント



便利で 快適に

小山町は東京から100 km圏内、山梨県、神奈川県との県境にあり、東名高速道路とそれに並行して走る国道246号の東西交通軸に加えて、国道138号、国道469号と東富士五湖道路によって中央自動車道とも連結しています。さらに、新

東名高速道路の整備もすすみ、大御神地先には、スマートインターチェンジ併設のパーキングエリアも計画され、広域的な交通拠点になること

が期待されます。道路整備は快適な暮らしの基盤であるとともに、地域の活性化を図る大切なものです。町内の道路は、平成23年度末現在で、国道、県道を含めて1、510路線からなり、総延長は551.7 kmです。生活道路である町道の舗装、改良、新設などの整備にも力を注いでいます。

また、国土交通省と小山町は平成16年度に道の駅「ふじおやま」を国道246号用沢地先に、平成23年度には道の駅「すばしり」を国道138号須走地先に開設しました。

BEFORE AFTER

おやま今・むかし



【 須走本通り 】

須走富士浅間神社の門前町として栄えてきた須走のメインストリート。富士登山者のための旅館や商店が立ち並び、地域の中心地を形成しています。

現在、富士浅間神社春まつりや富士山開山式の際には、盛大にパレードが開催されています。

写真は、馬車鉄道があった100年前（1906年撮影）のようすと、50年前の同じ場所。現在とは大きく印象が変わっています。

100年前



50年前



現在



INTERVIEW

町民インタビュー

『富士山からの恩恵を
引き継ぐために』



米山 ちはる 千晴さん（上本町）

富士山須走口の登山ルートは、森林限界が高いため高山植物を楽しみながら登り、違うルートを下るという変化に富んだ登山を楽しめます。首都圏からのアクセスが良いため関東方面から外国人も多数訪れ、特に最近、中国や韓国のお客さんが急増しました。富士山にいと、国際情勢や健康ブームなど、社会情勢も良くわかります。

富士山から小山町は、観光だけでなく水や豊かな心など、多くの恩恵を受けています。その富士山も、地球温暖化などの影響で荒れてしまっています。今を生きる人たちが、できることをやっていくことが大切です。

そして、これからの担う子どもたちには、どうしたら守れるのかを考えて欲しい。富士山のことを子どもたちに伝えていくことも、わたしたちの大切な役割です。富士山に感謝！



富士山須走口五合目は、標高約2,000m。夏の登山シーズンはたくさんの登山者でにぎわいます。

五合目から片道20分程度の小富士（標高1,979m）ハイキングは、鳥のさえずりを聞き、植物を見ながら富士山の自然を気軽に楽しめる、人気のハイキングコースです。

健やかで、安らげるまち。



第4次小山町
総合計画から

健康づくり

誰もが安心して健康に過ごせるま
ちを目指して、医療費の助成や医療
機関との連携、医療体制の充実を図
ります。

疾病の予防は、乳幼児から高齢者
まで、それぞれに応じた健診制度を
体系的に充実させて、早期発見・早
期治療に努めることが大切です。

町民皆さんの健康増進のために、
特定健康診査の受診率向上や地域で



2



3

- ①交通安全・防火パレードで火の用心を呼び掛ける
- ②健康フェスタのはいはいグランプリの出走を待つ赤ちゃんたち
- ③明倫地区体育大会での玉入れ
- ④三世代ふれあいの日でチームを応援する園児たち

支えあう福祉

の健康づくりを支援します。
また、小学校区ごとの医療機関を
継続して確保し、誰もが安心して医
療を受けられる環境の充実を図りま
す。

医療の発達、平均寿命の伸びにと
もに、小山町でも高齢化が進んでい
ます。平成23年度末の65歳以上は
4,746人で、高齢化率は23・5%



4

なっています。また、要支援・要
介護者数は増加していて、介護予防
の必要性が高まっています。平成23
年度末の要介護認定者数は723人
で、介護保険制度施行当初に比べて
約2倍になっています。要介護認定
者数がさらに増えていく中で、要介
護状態とならないための健康づくり
や生きがいのある生活を送ることが
できる体制づくりを推進していきま
す。

小山町では平成21年度に「第3次
小山町障害者計画」と「第2期小山
町障害福祉計画」を策定しました。

障がいのある人もない人も、互に

人格と個性を尊重して支えあう社会
の実現を目指しています。

安心して 育てる

未婚化・晩婚化の進行や出生率の
低下から少子化が進んでいます。中
学生までの医療費の無料化や保育制
度の充実、放課後児童クラブの整備、
ファミリーサポートセンター事業の
推進など、仕事と子育ての両立支援
をして、子どもを生み育てやすい環
境をつくっていきます。

災害に強い まちづくり

小山町は、過去、昭和47年、54年、57年の台風災害、そして平成22年9月8日には、台風9号に伴う時間雨量100mmを超える集中豪雨による災害で、河川の氾濫、決壊による住宅・農地被害、道路崩落、土砂崩れなど、これまで幾度となく大きな被害をこうむってきました。こうした過去の経験と、小山町の地理的条件を踏まえ、災害に強いまちづくりを進めます。一人ひとりの防災意



識を高めて、町内にある40の自主防災組織の育成や、助け合えるコミュニケーションづくりに取り組み、自主防災組織、消防団、自衛隊、消防署と連携して充実した防災訓練を実施します。

また、計画的な治山治水事業や急傾斜地における土砂災害対策を推進していきます。防災マップの作成、全国瞬時警報システムの導入や各戸に配布されている防災行政無線の整備に努めます。



安心して 暮らす

小山町では平成14年に施行された「小山町生活安全のまちづくり条例」に基づき、小山町生活安全のまちづくり推進協議会を設置し、町民、地区防犯団、警察などと連携を図っています。

また、交通安全の面では広域観光地であることから、町外のドライバーが交通事故の第一当事者になる割合が高く、流入車両に対する交通安全対策が必要になっています。

地域の実情に合わせた交差点の改良や歩道の設置、道路標識やカーブミラーなどの整備を推進します。

小山町の消防と救急業務は、ごみやし尿処理と同様に、御殿場市・小山町広域行政組合で行っています。御殿場消防署には高さ36mのハンゴ付き消防ポンプ車をはじめ、化学消防車や水槽車などの特殊な車輛を配備し、24時間体制で町民の生活を守っています。町内には小山消防署と須走分署があり、火災や救急に備えています。

- ① 消防出初式に参列する女性消防団「ふじにご隊」
- ② 町内幼稚園・保育園で行われる交通安全教室
- ③ 登校時に交通安全を呼び掛ける街頭指導
- ④ 訓練中の消防職員

BEFORE AFTER

おやま今・むかし



【バスが行く】

昭和36年4月17日に撮影された春の小山町。場所は、佐野川バス停から一色バス停に登る国道246号（現在の県道沼津小山線）の道路わき。題名は「バスが行く」。写真の説明には、「小山町観光協会 準特選作品」とあります。

現在の国道246号が開通する10年以上前で、バスの形、かやぶきの家、着物姿の女性などが50年の歳月を物語ります。

撮影者は、一色の鈴木仁さん。カメラは「ミノルタA5」と記録されています。

50年前



現在



現在の写真と比較すると、道路の両側には歩道が設置され、電柱が立ち並んでいます。バス会社は現在も同じ「富士急行」。1時間に1～2本が運行されています。

INTERVIEW

町民インタビュー



小見山 ^{きみお} 公男さん
と ^{とみこ} 都美子さん（桑木）

『子どもを育てるには
最高の場所』

オスとメスの区別もできずに始めたホタルの飼育。インターネットや、足柄小学校の小原教頭先生（当時）にも教わりながら育ててきました。今では、自宅横のビオトープに4～50匹のホタルが飛び交い、町外からも多くの人が見に来てくれます。「冥土の土産に見に来た」なんて言う人も。この取り組みを通じ、人と人とのつながりのすばらしさを実感しています。

小山町は、首都圏からのアクセスも良く、水と緑が豊かで、子どもを育てるには最高の場所です。たくさんの人が訪れ、良さを知り、住んでもらいたい。そのための情報発信の重要性も感じています。

小山町の子どもたちには、もっと自然の中に入って、どんな環境でも生き抜くたくましさを持ってほしいと思います。金太郎のように！



平成24年3月、町でも生涯学習センターの多目的広場北側に、「ホタルの里」を整備しました。専門家の指導の下、小山町建設業組合の皆さんがボランティアで作業に参加。ホタルの幼虫が生息できる環境を整え、幼虫を放流しました。6月中旬には、第1号のホタルを確認しています。

誰もが輝く、いきいきとしたまち。



第4次小山町
総合計画から

文化の薫り 高く

町民一人ひとりが生涯にわたり主体的に学び、豊かで充実した人生を送れるように、生涯学習を推進します。自主文化事業や各種趣味教室、講演会、体験学習など学習の機会を提供します。また、文化団体を育成して、連携を図り、町民文化祭など学習成果の発表の場を充実させます。

図書館では、子どもの読書離れが危惧される中、幼少時から読書習慣

を身につけるように、おはなしの会や児童講演会などを充実させていきます。

また、地域文化に親しみ、伝統文化を継承し、郷土愛を深めるために、文化財や郷土についての学習を推進します。

町民が気軽にスポーツを楽しめるように各種スポーツ教室など、誰もが参加できるイベントを充実させます。スポーツ・レクリエーションを通じて、心身が健康になり、地域の一体感や活力の向上につながっていくことが期待されます。



2



3



4



5

- ① 小学校の運動会で騎馬戦の真剣勝負
- ② 町民文化祭で練習の成果を發揮
- ③ 地区対抗で戦う町民スポーツ祭
- ④ 昼休み時間はグラウンドで元気に遊ぶ
- ⑤ 平成23年全国中学校駅伝大会に初出場 9位の小山中男子駅伝部

生きる力を 育てる

町内には、幼稚園4園、保育園4園と、小学校5校、中学校3校があります。

平成24年5月1日現在の各施設の児童・生徒数は、幼稚園327人、保育園338人、小学校1,072人、中学校562人です。特別支援学級は小学校4学級、中学校4学級設置しています。

知・徳・体をバランスよく育てる教育が必要で、「生きる力」を育てる教育が求められています。

子どもたちが、地域で安心して暮らせるように、地域ぐるみでの見守りに取り組みます。

また、地域の方々に学校行事に積極的に参加していただき、魅力ある協働による学校づくりにも取り組んでいます。

小山町では、昭和30年に須走小学校で給食が始まって以降、中学校まで、学校単独方式の給食が実施されています。育ち盛りの子どもたちに、地元の食材を取り入れた給食を提供して、望ましい食習慣や食生活が身につくように指導しています。

富士紡績とともに 栄えたまち

小山町の工業の起源は、明治29年に富士紡績が操業を開始したことに始まります。その後富士紡績の従業員は1万人余りを数え、小山町は富士紡績とともに栄えました。

昭和62年に32ヘクタールの富士小山工業団地、平成2年には21・9ヘクタールのハイテクパーク富士小山が完成しました。

富士紡績による「紡績の町」から先端技術を有する企業の進出によって「テクノロジーの町」へと変化を遂げてきています。

にぎわう 商店街を

しかし、近年は既存企業の製造部門の縮小や撤退により、町内工業団地の空洞化が懸念されています。企業誘致を積極的に行い、用地の有効活用を行っていきます。

小山町は小山、北郷、足柄、須走の4つの地域ごとに商店街を含む市街地を形成してきましたが、近年、近隣市町の商業力を受けて消費者が流出しています。町民の多くは長年にわたり小山町に住み、今後も住み



1



2

- ① 富士紡績第1・2工場跡地には新たな工場が進出
- ② ハウス栽培「金太郎トマト」の初食味会
- ③ 北郷地区に広がる初夏の水田



3

地域の特性を生かした 農林業

小山町では地域の特性を生かした農業の振興に努めています。水稲については、全国米コンテストの上位

続けたい要望を持っています。商店街のにぎわいを取り戻すため、集客イベントや企業支援、商業後継者の育成などを商工会と連携して行っていく予定です。

入賞など「うまい米づくり」への取り組みが広がっています。水掛け菜やワサビなどの品質向上を図り、町内の農産物の地産地消を推進します。一方で農業従事者の高齢化や担い手が不足しています。次代を担う農業者を育成していく必要があります。森林の持つ水源かん養や地球温暖化の防止などの機能を高めるため、山地災害の復旧、予防対策及び森林の整備をすすめます。併せて、木質ペレットの導入など間伐材の積極的な活用を促進します。

BEFORE AFTER

おやま今・むかし



【 駿河駅（駿河小山駅） 】

明治22年2月1日、東海道鉄道の駅として「小山駅」が開業しました。明治42年に東海道本線に名称が変わった後、小山町制が施行される1カ月前の明治45年7月1日、「駿河駅」になりました。昭和27年1月1日に、現在の「駿河小山駅」に改められるまでの間、内外の人々に親しまれてきた駅名です。

現在、駿河小山駅の前後にある「足柄」「谷峨」の両駅が開業したのは昭和22年のことなので、写真はそれ以前のものであることがわかります。

65年程前



現在



現在のJR御殿場線「駿河小山駅」。昭和43年に駅舎が改築され、同年7月1日には、御殿場線が全面電化され、現在の形になりました。

平成24年3月17日から、駿河小山駅は無人駅となりました。

INTERVIEW

町民インタビュー



渡邊 ^{みつこ} 光子さん（大御神）

『みんなで輪になり、
和を広げる』

小山町文化連盟の会長を今年度から務めることとなり、今まで先輩方から受け継がれてきた小山町の文化を大切にしたいという思いが強くなりました。文化連盟は分野が広く、それぞれどんなことをしているのかわからない人が多いと思います。お互いの活動の中身を知り合いながら、そして、たくさんの町民の皆さんと一緒に楽しむことができたらいいなと思っています。

わたしが所属する小山町民踊愛好会は、今年で45周年を迎え、130人以上の会員が民踊を楽しんでいます。昔から町民に親しまれている「金時おどり」を、子どもからお年寄りまで、もっと多くの方々に踊ってほしいと思っています。金太郎生誕の地のひとつの文化として、小山町のみんなが輪になって踊ったら、人の和が広がり、さらに文化の輪が広がると思います。



平成21年10月25日に、小山町総合文化会館金太郎ホールで開催された第24回国民文化祭・しずおか2009「民謡・民舞の祭典」では、そのフィナーレを民踊、邦楽、洋楽の団体による金時おどりで、華々しく締めくくりました。

手と手をつなぐまち。



第4次小山町
総合計画から

広域連携を推進

日常生活圏が広がっていき、生活様式も多様化されています。自治体運営についても広域的な対応が求められています。また、効率的な行政運営や住民サービスの向上に向けて、広域連携による取り組みも求められています。小山町は、御殿場市・小山町広域行政組合をはじめ、住民票や印鑑証明の広域窓口サービス、介護保険の要介護認定事務などについて、周辺市町との連携を進めています。さらに、小山町、富士市、富

士宮市、御殿場市、裾野市の4市1町による「富士山ネットワーク会議」や、小山町、御殿場市、裾野市による「2市1町広域連携研究会」などで、その研究を進めています。

住民アンケートによれば、広域連携、市町村合併に関心があるものの、市町村合併には消極的な傾向が見られました。広域連携にはある程度積極的であることがうかがえます。

広域的な行政課題への対応や共同処理による行政運営の効率化を図るため、さらなる自治体相互の連携を強化して拡充する必要があります。



②

健全な財政運営

長引く景気の低迷や社会保障関係費の増加、町税や国・県の補助金の減少などから、地方公共団体は財政基盤の安定性を失いつつあります。

小山町でも、自主財源である町税をはじめ、交付金の減少などで厳しい財政運営となっています。しかし、町は基金の取り崩しなどで、町民サービスが低下しないよう、まちづくりに取り組んでいます。

また、平成22年の台風9号の集中豪雨による甚大な被害に対する災害復旧費も大きく、財政調整基金を充



③

- ① まちの将来を考える中学生未来会議
- ② 富士山ネットワーク会議の会場となった豊門会館の説明を受ける、近隣市の市長と小山町長
- ③ 役場本庁の住民課窓口

てて対応しました。

今後、自主財源の確保や経費の削減、公債費の抑制などにより自主・自立した財政基盤の確立を目指します。また、事業については町民と意見交換する機会を増やして、それぞれができることを協力しあう体制づくりを推進していきます。

効率的な行政運営

地方分権の推進により、地方の「自己決定」「自己責任」の範囲が拡大して、真の自立が問われています。このような地方分権、地域主権型社会の進展に伴い、地方は自ら活力を高め、創意工夫による地域づくりを行うっていくことが求められます。

行政への需要はますます複雑化、多様化していて、それに対応するため事務事業の整理、合理化、行政のスリム化とともに、町民に参画してもらう行政運営が課題になっています。

小山町でも業務の民間委託化や人

件費の抑制など、行政運営の効率化に努めています。

しかし、今後も急速な少子高齢化などによる行政需要の増大が見込まれていて、行政改革を着実に進める必要があります。このため、事業の廃止や統合を行い、行政評価システムを導入して、絶えず事務事業の効率化・改善をしていきます。町民理解のもとに町民本位の行政運営を進めます。

- ① 指定管理者により運営されている道の駅「すばしり」
- ② 災害現場で行われた出前講座（町民井戸端会議）
- ③ ボランティアによる富士箱根トレイルへの道標設置



協働と共創

地方自治体の「自己決定」「自己責任」による運営が問われる今、「開かれた行政」と「協働によるまちづくり」が求められています。

小山町では、町民・団体・企業と行政がともに知恵を出し合い、まちづくりを行っていくように、地域社会の一体感を醸成する活動やNPO、ボランティア団体などの支援を行っています。

また、町民と行政がともに学習し



たり、町民の声を広く町政に生かすために、町長や役場職員が地域に向く出前講座、職員の地域担当制度などを平成24年1月から設けました。これらを活用することで、町民自らが地域の課題を解決して、住みよい地域づくりが進むことが期待されます。

さらに、透明性の高い行政運営に向けて積極的に情報公開を推進します。「広報おやま」やホームページなどの充実を図り、町民が情報を発信しやすい広聴の仕組みづくりにも取り組んでいきます。

BEFORE AFTER

おやま今・むかし



【 小山町役場庁舎 】

関東大震災で半壊するなど、傷みのひどい初代庁舎建て替えのため、昭和6年7月30日、敷地1,319㎡を買収、建設工事に入り、昭和7年11月13日、二代目庁舎が落成しました。

県下きっての近代的建物として登場した庁舎は以後約半世紀、昭和56年11月、建て替えのため取り壊されるまで、町のシンボルとして存在し続けました。

80年前



現在



現在の小山町役場庁舎は三代目。二代目庁舎が解体されたあと昭和56年12月から建設に着手し、翌57年11月30日に完成しました。地上4階、地下1階建ての新庁舎は、町の新たなシンボルとなり、この年の町制70周年を彩りました。

INTERVIEW

町民インタビュー



山橋 ひろゆき 弘幸さん (小山2区)

『今までもこれからも、
主役は子ども』

わたしが子どもだった昭和40年代、小山には人があふれ、町全体に活気がありました。祭りや運動会など、とても楽しかった思い出があります。でも、いつの間にか元気のない町になってしまいました。そこで、20年ほど前に商工会青年部の仲間と「小山の夏まつりを復活させよう」という話で盛り上がり、勢いでまつりを開催。恒例となったタイヤチューブの川下り「おやまDE どんぶらこ」にもつながっています。

若者には、何ごとにも恐れず突き進む勢いがあります。今の若者にも、イベントの企画・運営により、仲間と達成感を分かち合うようなことをやってほしいと思います。

また、子どもたちが自然に触れる体験ができる場所を作りたいと思い、10年ほど前からイタヤカエデを山に植えたり、釣り場整備の夢も持っています。いつの時代も主役は子ども。100年後の小山町で、子どもたちが豊かな自然の中を、目にした木や花の名前を言いながら歩いている。そんなふうになっていたらいいなと思います。



「おやまDE どんぶらこ」と同時に開催された魚のつかみ取りも、子どもたちに大人気。川に入り、自分の手で魚を触ることが少なくなった現在の子供たちに、「やってみなければわからないことを経験させたい」という思いで行いました。

おやまの歴史

静岡県の北東端に位置し、富士山のふもとの寒村だった六合村と菅沼村は、東海道線の開通と富士紡績の操業により、明治の終わりに大きく発展し、小山町が誕生しました。ここでは、小山町が誕生してからの100年間を振り返ります。



- | | |
|---|---|
| ② | ① |
| ④ | ③ |
| | ⑤ |
- ①大正元年
町制記念式典
 - ②小山町発足当時の役場
 - ③大正3年
水害による鮎沢川護岸復旧工事
 - ④大正9年
当時の東海道線（現在の御殿場線）を走るSL
 - ⑤富士紡績の工場

西暦	元号	月日	記事
1912	大正元	8月1日	六合村、菅沼村が合併して町制施行。小山町が誕生。
1913	大正2	12月29日	区長設置規則を制定。町内9区に区長、区長代理者を置く。
1914	大正3	1月12日	消防組を組織。町内に9部を設置。
		1月25日	成美、菅沼に実業補習学校を設置。
		4月13日	落合宮の台に隔離病舎を設置する。
		6月1日	富士紡績社長の和田豊治氏から町制施行を記念して寄贈された株式100株を、特別基本財産管理規程で管理することとする。
		6月1日	富士紡績第5工場（綿布）が創業。
		8月23日	台風が襲来し、大きな被害が出る。
		8月13日	第1次世界大戦が勃発。日本はドイツに宣戦布告し、小山町から21人が召集される。
		9月30日	富士見橋が落成。
		11月20日	菅沼中央道路が開通。
1915	大正4	3月20日	台風が襲来し、大きな被害が出る。1914年に次いで大きな被害が出る。
1917	大正6	9月30日	米価暴落。町では篤志者から募金を集め、救済に努めた。
1918	大正7	8月3日	生土の城山下道路改良工事が完成。
1919	大正8	6月20日	小山字幕下に避難所（1,024㎡）を設置。
1920	大正9	7月12日	第1回国勢調査。人口17,536人、世帯数2,986戸。
1921	大正10	10月1日	中島の滝の前町道が完成。
1922	大正11	10月1日	消防組を3部に改正。
1922	大正11	11月15日	落合に小山藤曲郵便局が開設される。
1923	大正12	12月11日	方面委員制度を制定。
		3月22日	小山藤曲郵便局の付近で大火事。全焼52戸、230人が罹災。成美、菅沼両校に町立図書館を設置。
		8月12日	午前11時58分、関東大震災。震度6の揺れで県下最大の被害。
		9月1日	普通選挙制度となつて初めての選挙となる町議会議員選挙。
		10月1日	町営住宅を、菅沼に8戸、久保河原に13戸建設。
		3月30日	大正天皇御成婚25年記念事業として、鮎沢川沿いに吉野桜250本を植樹。
		5月10日	第2回国勢調査。人口19,105人、世帯数3,303戸。
		10月1日	関東大震災で被害を受けた富士紡績小山工場が完全復旧。
		10月15日	御殿場町ほか3カ町村で道路組合を設置。
		3月27日	陽チフス流行地に指定。
		4月1日	豊門会館が落成。和田豊治氏遺徳碑を建立。
		5月16日	部落有財産が林野統一される。
		6月28日	



- ①大正12年 関東大震災の惨状
- ②大正15年 豊門会館落成式
- ③昭和2、3年頃の駿河小山駅前通り
- ④昭和2年 落合橋の落成式
- ⑤昭和初期に建立されたまさかり (戦争のため昭和16年に供出)
- ⑥昭和7年 役場庁舎(二代目)落成
- ⑦昭和8年 音淵通り商店街

③	②	①
⑥	⑤	④
		⑦

1935	1934	1933		1932	1931			1930	1929		1928	1927															
昭和10	昭和9	昭和8		昭和7	昭和6			昭和5	昭和4		昭和3	昭和2															
10月1日	4月14日	12月1日	5月30日	5月5日	7月29日	2月18日	11月14日	11月13日	5月31日	5月10日	3月4日	9月18日	11月26日	10月7日	10月1日	9月16日	6月1日	5月28日	2月27日	2月26日	4月24日	10月30日	8月19日	5月9日	10月11日	7月1日	6月30日

駿東郡役所が廃止。
 成美、菅沼両校に青年訓練所を併置する。
 落合橋が落成。
 中国山東省済南府に戦乱が起きる。動員令で小山町から33人が召集される。11月に復員。
 台風が襲来し、六合橋をはじめとした橋梁、そのほか田畑、山林に大きな被害が出る。
 駿河中野線道路組合を設置。
 警部補派出所庁舎を富士紡から町に、さらに県有に移管する。
 成美・菅沼両校に併置していた青年訓練所を成美小学校内に移し、小山町青年訓練所と改称。
 税制改正を行い、戸数割を廃止して、家屋税附加税に改める。
 成美尋常高等小学校を小山町第一尋常高等小学校、菅沼尋常高等小学校を小山町第二尋常高等小学校に学校名を改称。
 町報発行規程を制定。6月25日に創刊号を発行。
 小山菅沼郵便局が茅沼に開設される。
 第3回国勢調査。人口16,916人。世帯数3,213戸。
 富士見橋、六合橋が鉄筋橋に改築される。
 伊豆葦山付近で大地震が起こり、町内の軍人、青年団、消防団が救援に出動。
 南満鉄道の柳条溝で満州事変が勃発。
 菅沼に授産所を設置。
 小山町青果市場が、食品卸売市場として菅沼で営業を開始。
 小山町ほか1カ村足柄三保線道路組合ができる。
 小山町役場庁舎(二代目)が落成。
 台風が襲来し、家屋全半壊40戸、非住家被害41戸、その他学校などに大きな被害がでる。
 茅沼区で大火。36戸が全半焼する。
 音淵区で大火。93戸が全焼する。
 音淵区で大火。銀行通り17戸が全半焼する。
 金時公園を設置するため、中島区内に13,300㎡の用地を買収する。
 東海道本線が丹那トンネル開通により熱海経由となり、沼津駅〜国府津駅間は御殿場線となる。
 金時公園が開園。
 第4回国勢調査。人口15,230人、世帯数2,762戸。

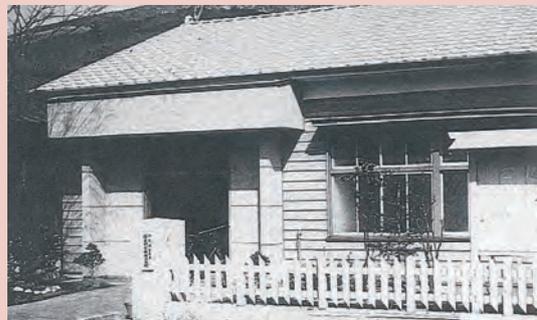
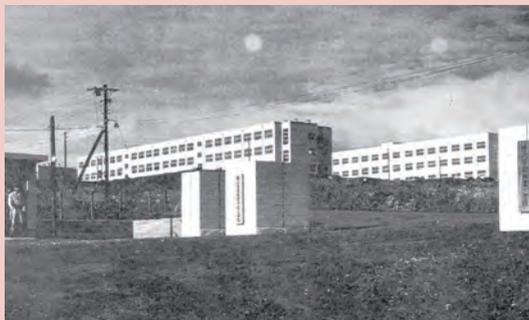
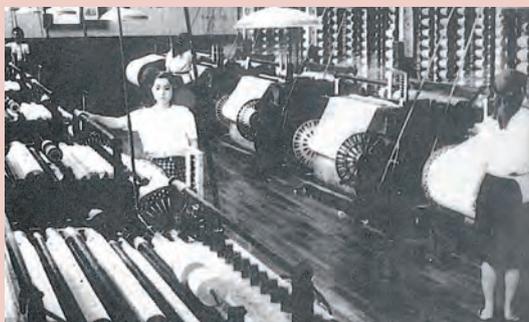


- ①昭和10年 金時公園開園
- ②昭和13年 横綱双葉山が大相撲興行
- ③太平洋戦争中の出征兵士
- ④昭和15年 湯船原に日の丸道場建設
- ⑤昭和16年 国民学校に改称
- ⑥米俵を積んで収穫を祝う用沢の人々
- ⑦昭和17年 奉安殿
- ⑧昭和22年 足柄駅開駅

③	②	①
⑥	⑤	④
	⑧	⑦



西暦	元号	月日	記事
1949	昭和24	8月31日	キティ台風襲来。
1948	昭和23	8月28日	音淵区で大火。全半焼42戸、非住家全半焼9戸、7人が重軽傷を負う。
		9月16日	アイオン台風襲来。河川や橋梁に大きな被害。
		9月1日	県立御殿場高校の小山分校開設。
		4月5日	小山中学校の足柄分校を開校。
		3月10日	自治体小山町警察署を設置する。
		10月31日	警防団を解散し、消防団を設置する。
		10月1日	臨時国勢調査。人口16,658人、世帯数2,922戸。
		4月28日	授業をはじめ。
		4月17日	小山中学校が開校。成美小、明倫小、豊門青年学校の各校舎で授業をはじめ。
		4月1日	地方自治法公布。
		4月1日	学校組合立の小山中学校を設置。
		4月1日	と改称され、高等科が廃止される。
		11月3日	日本国憲法公布。
		8月15日	終戦。
		7月30日	米軍艦載機の空襲で、富士紡をはじめとして町内に人的損害。
		8月24日	北郷村森林組合に加入する。
		12月11日	菅沼区から茅沼、坂下、谷戸、大脇、原向を分離して5区を新設する。
		12月8日	太平洋戦争が勃発。
		5月5日	落合橋、小山橋、小山厚木線が開通する。
		4月1日	第一・第二尋常高等小学校が、それぞれ成美・明倫国民学校に改称される。
		2月11日	大政翼賛会小山支部が結成される。
		10月1日	第五回国勢調査。人口13,912人、世帯数2,345戸。
		1月15日	静岡大火（静岡市）。町内の軍人、警防団、青年団が救援に出勤。
		5月27日	消防団を警防団に改組する。
		4月1日	銃後奉公会が結成される。
		9月4日	防護団、国防婦人会が結成される。
		8月26日	応召軍人軍属、家族後援会が結成される。
		7月7日	盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が勃発。
		2月24日	奈良橋の産業道路が完成。
		1月25日	生土区で火災。富士紡績の裏門付近の12戸が焼失。
1937	昭和12	1月25日	
1939	昭和14	4月1日	
1940	昭和15	1月15日	
1941	昭和16	4月1日	



- ①昭和25年
落合通り18戸全焼
- ②昭和25年
富士紡績工場の内部
- ③小山中学校子供銀行
- ④昭和29年 須走に警部派出所設置
- ⑤昭和29年 陸上自衛隊富士学校設立
- ⑥昭和30年 足柄村との合併調印
- ⑦昭和30年 御殿場線に小田急乗り入れ
- ⑧昭和31年 小山町・北郷村合併促進協議会

3	2	1
6	5	4
	8	7



1
9
5
7

昭和
32

6月21日
6月5日
4月1日
3月31日
9月30日
9月30日
9月19日
9月1日
8月1日
8月1日
5月21日
4月25日
3月31日

町村合併で須走村有財産の協定を結ぶ。
足柄地区・北郷支所と本庁を結ぶ農事放送施設第2期工事完成。
小山町放送協会を解消し小山町有線放送利用農業協同組合設立。
古沢区域の分町問題が起き、県から調停案受諾の勧告を受ける。
北郷地区住民代表が調停案受諾と分町反対の陳情書を提出。

1
9
5
6

昭和
31

10月1日
10月1日
4月2日
4月1日
4月1日
4月1日
4月1日
4月1日
4月1日
1月27日
8月20日

御殿場線に小田急電鉄乗り入れが始まる。
第8回国勢調査。人口17,273人、世帯数3,181戸。
足柄中学校を廃して小山中学校区とする。
小山町・北郷村合併促進協議会を設置する。
上水道新設第1期工事が完成する。

北郷村と合併。

町村合併で北郷村有財産の協定を結ぶ。
生土保育所を開設する。

小山町・須走村町村合併促進協議会を設置する。
須走村と合併。

1
9
5
5

昭和
30

4月1日
4月1日
4月1日
4月1日
4月1日
4月1日
9月26日
11月1日
8月26日
11月3日
10月5日
4月1日
10月1日
4月22日
4月14日
11月5日

陸上自衛隊富士学校設立。
小山町・足柄村町村合併促進協議会を設置する。
足柄村と合併。
町村合併で足柄村有財産の協定を結ぶ。
小山町役場足柄出張所を設置する。
所領地区を明倫小学校区にする。
積雪寒冷単作地帯振興臨時措置法に基づき、農林省特別総合助成事業として農事放送施設が全国ではじめて認可され、足柄地区の一部と本庁・足柄出張所間に放送電話を設置する。

1
9
5
4

昭和
29

1
9
5
3

昭和
28

1
9
5
2

昭和
27

1
9
5
1

昭和
26

1
9
5
0

昭和
25

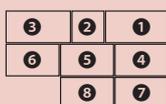
1
9
5
0

昭和
25

小山中学校校舎が落成。
落合区で大火。18戸が全半焼する。
成美小学校で大火。
第7回国勢調査。人口16,803人、世帯数2,844戸。
母子寮「富士見寮」を設置。
引揚者住宅地を設置。
小山中学校が優良施設校として文部大臣から表彰される。
小山区で大火。57戸が全半焼する。
小山町教育委員会が設置される。
自治警察の存廃が住民投票で廃止に決まる。
国警北駿東地区警察署小山町警部派出所が設置される。



- ①昭和32年 小山中卒業式
- ②③昭和32年 静岡国体
- ④昭和34年 上野明神峠バス開通
- ⑤昭和34年 成美小プール落成式に 秩父宮妃殿下ご臨席
- ⑥昭和36年 須走のスケート場
- ⑦昭和36年 小山～須走間の中央道路
- ⑧昭和37年 町制50周年記念式典



	1964	1963	1962	1961	1960	1959	1958	1957	西暦
	昭和39	昭和38	昭和37	昭和36	昭和35	昭和34	昭和33	昭和32	元号
	7月1日	6月1日	4月6日	11月3日	11月1日	6月27日	2月19日	10月1日	6月13日
	4月12日	11月16日	6月3日	4月10日	10月1日	4月21日	4月6日	11月1日	10月30日
	9月26日	8月14日	6月6日	3月31日	9月27日	3月31日	3月31日	3月31日	10月28日
	8月31日	8月31日	7月31日	7月6日	7月31日	7月31日	7月31日	7月31日	7月6日
	古沢区域内の町有財産を御殿場市に引継ぐ。 古沢区域から古沢の区域を御殿場市に編入する境界変更が告示される。								
7月1日	6月1日	4月6日	11月3日	11月1日	6月27日	2月19日	10月1日	6月13日	4月12日
11月16日	6月3日	4月10日	10月1日	4月21日	4月6日	11月1日	10月30日	9月26日	8月14日
6月6日	3月31日	9月27日	3月31日	3月31日	10月28日	8月31日	8月31日	7月31日	7月6日
7月31日	7月6日								
古沢区域内の町有財産を御殿場市に引継ぐ。 古沢区域から古沢の区域を御殿場市に編入する境界変更が告示される。									

記事



- ①昭和37年 第1回文化祭
- ②昭和39年 有線放送会館完成
- ③昭和39年 東京オリンピック町代表聖火隊
- ④昭和39年 富士見橋新設
- ⑤昭和40年 老人ホーム福寿荘完成
- ⑥昭和40年 富士霊園開園
- ⑦昭和40年 富士スピードウェイ開場
- ⑧町民体育大会

③	②	①
⑥	⑤	④
	⑧	⑦



1967

昭和42

11月1日
10月12日
5月1日
11月19日
9月24日
7月1日
4月1日
4月1日

御殿場市・小山町の広域行政組合による救急自動車業務を開始する。
柳島二本杉が県天然記念物に指定される。
藤曲保育所を開設する。
御殿場高等学校小山分校の校舎が落成する。
台風26号襲来。瞬間風速36mの台風の直撃で大きな被害がでる。
飼い犬条例を施行する。
北郷保育所を開設する。
老人福祉センターを開設する。
御殿場市・小山町厚生施設組合を設立、伝染病隔離病舎、火葬場、塵芥焼却場の共同処理をはじめめる。
広報おやま「お知らせ版」を創刊する。
御殿場市・小山町のイチョウの木が県の天然記念物に指定される。

1966

昭和41

3月12日
12月5日
11月1日
10月1日
9月1日
7月9日
5月23日
4月1日
4月1日
4月1日
4月1日

富士スピードウェイが開場する。
富士霊園が開園する。
NHK小山テレビ中継局が設置される。
第10回国勢調査。人口25,301人、世帯数4,919戸。
国道246号の新小山橋が完成。
上野のトチノキと大胡田のイチョウの木が県の天然記念物に指定される。
広報おやま「お知らせ版」を創刊する。
御殿場市・小山町厚生施設組合を設立、伝染病隔離病舎、火葬場、塵芥焼却場の共同処理をはじめめる。
老人福祉センターを開設する。
北郷保育所を開設する。
飼い犬条例を施行する。
台風26号襲来。瞬間風速36mの台風の直撃で大きな被害がでる。
御殿場高等学校小山分校の校舎が落成する。
藤曲保育所を開設する。
柳島二本杉が県天然記念物に指定される。
御殿場市・小山町の広域行政組合による救急自動車業務を開始する。

1965

昭和40

1月11日
4月1日
12月11日
11月1日
10月6日
10月6日
7月7日
7月6日

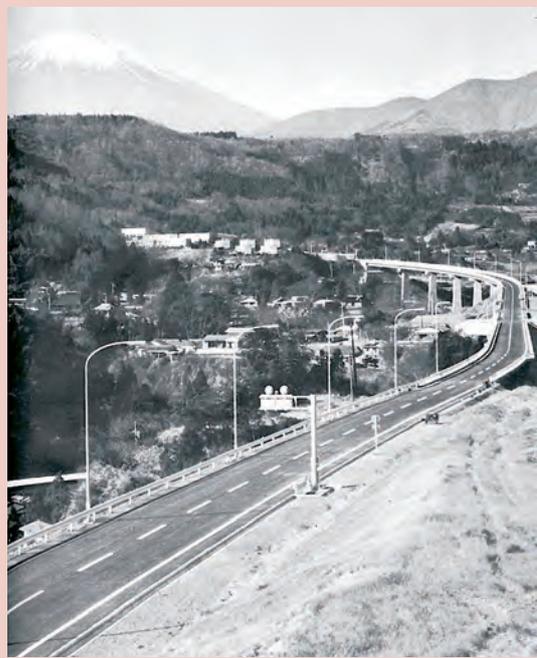
湯船原に東富士変電所ができる。
「交通安全都市」を宣言する。交通補導員（41年4月1日に民間交通指導員にかわる）制度ができる。
第37回学生氷上選手権大会が須走で開かれる。
町立老人ホーム「福寿荘」を開設する。
中島金時公園内に児童館を開設する。
小山幼稚園を開設する。
教員独身寮「青雲寮」を開設する。
上水道の定額制をメーター制にする。
小山ライオンズクラブが全国836番目のクラブとして誕生。
富士霊園が開園する。
NHK小山テレビ中継局が設置される。
第10回国勢調査。人口25,301人、世帯数4,919戸。
国道246号の新小山橋が完成。
上野のトチノキと大胡田のイチョウの木が県の天然記念物に指定される。
広報おやま「お知らせ版」を創刊する。
御殿場市・小山町厚生施設組合を設立、伝染病隔離病舎、火葬場、塵芥焼却場の共同処理をはじめめる。
老人福祉センターを開設する。
北郷保育所を開設する。
飼い犬条例を施行する。
台風26号襲来。瞬間風速36mの台風の直撃で大きな被害がでる。
御殿場高等学校小山分校の校舎が落成する。
藤曲保育所を開設する。
柳島二本杉が県天然記念物に指定される。
御殿場市・小山町の広域行政組合による救急自動車業務を開始する。



- ①昭和41年 老人福祉センター開設
- ②昭和42年 東工工事 (下谷)
- ③昭和43年 駿河小山駅舎広場竣工
- ④御殿場線を走るSL
- ⑤昭和43年 御殿場線電化
- ⑥昭和43年 7月豪雨で足柄小運動場崩壊
- ⑦昭和44年 東名高速道路開通

③	②	①
⑤		④
	⑦	⑥

西暦	元号	月日	記事
1968	昭和43	3月25日	駿河小山駅の駅舎が改築される。
		5月1日	御殿場市・小山町広域行政組合によるごみ処理工場が運転を始める。
		6月12日	役場別館が火災、全焼する。
		6月29日	小山町文化財保護条例を制定する。
		7月1日	国鉄御殿場線が全面電化される。
		7月1日	役場庁舎の改築が完成。
		10月2日	駿河小山駅前広場が拡張整備される。
		10月26日	小山電報電話局が開局される。全国即時通話ができる。
		11月18日	落合に町立体育館を開設する。
		11月30日	国道246号菅沼地先に日吉横断歩道橋と菅沼横断歩道橋が設置される。
1969	昭和44	3月30日	吉久保大倉地区の農業構造改善事業が完成。9.2haの水田が整備される。
		3月31日	沼城平に小規模草地改良事業(仔牛の育成放牧場)60haの草地造成が完成する。
		4月16日	役場別館が落成する。
		5月26日	東名高速道路が開通する。
1970	昭和45	1月1日	第3子以降の出生児への祝金支給の制度をつくる。
		1月1日	町章・町旗を制定する。
		5月21日	落合に中央公民館を設置する。
		7月29日	吉久保に町民総合グラウンドを設置する。
		9月13日	中島に町民プールを開設する。
		10月1日	第11回国勢調査。人口24,256人、世帯数5,236世帯。
1971	昭和46	3月31日	菅沼農道(受益面積20.4ha)が完成。
		7月1日	足柄地域に新宿区立足柄学園が開設される。
		9月15日	駿豆地区広域市町村圏を設定する。
		10月1日	御殿場・小山広域都市計画区域に指定される。
		12月24日	国道246号バイパス道路の一部(具境から吉久保)が開通する。
1972	昭和47	1月1日	児童手当制度が発足する。
		3月28日	北部幹線農道が開通する。
		4月1日	御殿場市・小山町厚生施設組合を広域行政組合に改組する。
		5月26日	北郷に農業研修センターを開設する。
		5月31日	静岡銀行小山支店が御殿場支店に合併。



- ①昭和47年 国道246号中島インター
- ②昭和47年 消防小山分署開設
- ③昭和47年 六合橋を越える濁流
- ④昭和47年 集中豪雨で野沢川がはんらん
- ⑤昭和48年 勝央町と初電話
- ⑥皇太子殿下(現在の天皇陛下)がムサシノ電子工業ご訪問
- ⑦サイクリング道路(足柄)

③	②	①
⑤	④	
	⑦	⑥

1977

昭和52

11月18日
7月18日
6月30日
4月1日

成美小学校区にサイクリング道路を開設する。
上野沢橋掛替工事が完成する。
第3子以降の出生児への祝金制度を廃止する。

「青色申告宣言の町」宣言式が行われる。
都市計画法に基づく市街化区域・市街化調整区域・用途地域が決定される。

御殿場市との、し尿処理場の供用が開始される。
小山中学校図書室と併設の町立図書館が同校校舎の一部に独立オープンする。

青少年会館が完成する。
御殿場市との、し尿処理場の供用が開始される。

足柄小学校区にサイクリング道路を開設する。
第12回国勢調査。人口24,072人、世帯数5,575戸。

小山町有線放送須走局が開局する。
災害復旧記念式典が行われる。

母子家庭の医療費と重度身障者児の医療費負担制度が発足。
中島貯水池が完成する。

駿河幼稚園が完成する。
70歳以上のお年寄りに敬老祝金を贈ることとする。

北郷小学校区にサイクリング道路を開設する。
足柄小学校と岡山県勝央町の勝間田小学校が姉妹校縁組。

毎月第三日曜日を「防災の日」に定める。
新生児に誕生証書を贈ることとする。

岡山県勝央町と姉妹町の縁組を結ぶ。
甘露寺宝篋印塔と生土乗光寺大森六代の墓が町文化財としてはじめて指定される。

岡山県勝央町の電話ダイヤル自動化で町長が初通話。
岡山県勝央町の電話ダイヤル自動化で町長が初通話。

湯山勝人町長が国際地方自治体連合国際会議出席のため渡欧。
電話が小山、須走、御殿場広域時分制になる。

大気汚染など初の東名公害の総合調査が行われる。
国道246号バイパスが御殿場市まで開通する。

足柄峠で第1回笛まつりが行われる。
被害額合計24億円余。災害救助法が適用される。

集中豪雨が小山町を急襲。12時間に35.9ミリの雨量を記録。死者3人、流出家屋4戸、全壊家屋13戸、半壊家屋29戸、道路橋梁、河川、山地崩壊、農地、農作物、水道、水産、鉄道など被害額合計24億円余。災害救助法が適用される。

足柄峠で第1回笛まつりが行われる。
9月23日
10月5日
10月18日
12月18日
6月22日
8月8日
9月26日
10月25日
11月24日
4月1日
6月1日
7月16日
8月21日
9月19日
2月18日
2月28日
3月31日
4月13日
7月31日
8月25日
10月1日
2月26日
3月28日
4月1日
5月24日
10月12日
4月1日



- ①昭和53年 第1回富士小山マラソン
- ②昭和53年 町民健康センターオープン
- ③昭和54年 元巨人軍川上監督の野球教室
- ④昭和54年 第1回富士山クリーン作戦
- ⑤昭和54年 台風20号豪雨災害
- ⑥昭和55年 金時まつりに武者行列登場
- ⑦昭和55年 台風で流された坪入橋が復旧
- ⑧昭和57年 町制70周年記念式典

③	②	①
⑥	⑤	④
⑧	⑦	



西暦	元号	月日	記事
1984	昭和59	6月14日	東富士五湖道路の起工式が行われる。
1983	昭和58	4月1日	町史編さん事業がスタートする。
1983	昭和58	3月25日	足柄支所併設コミュニティセンターが完成する。
1983	昭和58	1月1日	須走支所併設コミュニティセンターが完成する。
1983	昭和58	8月8日	震度5の神奈川県西部地震が発生。
1983	昭和58	3月25日	社会福祉協議会が法人化される。
1983	昭和58	12月16日	役場業務の一部が電算化される。
1983	昭和58	12月5日	足柄支所併設コミュニティセンターが完成する。
1983	昭和58	12月5日	町制70周年、新庁舎落成記念式典を挙げる。また、町民憲章を制定する。
1983	昭和58	11月30日	役場新庁舎が完成。
1983	昭和58	11月30日	地上4階、地下1階、延べ床面積5,137㎡。
1982	昭和57	8月1日	台風10号襲来、雨量570ミリ、約37億円の被害。
1982	昭和57	8月1日	役場新庁舎が完成。
1982	昭和57	8月1日	京都市大江町と観光友好提携。
1982	昭和57	5月29日	町の木「ふじ桜」、花「菜の花」、鳥「うぐいす」を制定する。
1982	昭和57	3月23日	台風10号襲来、雨量570ミリ、約37億円の被害。
1982	昭和57	3月20日	役場新庁舎が完成。
1982	昭和57	3月15日	北郷中学校グラウンドに夜間照明施設が完成する。
1982	昭和57	1月7日	小山地区に有線ラジオ放送施設が完成し、町内全戸にスピーカーを設置する。
1982	昭和57	12月18日	生土など9か所にモーターサイレンを設置する。
1982	昭和57	11月1日	上横山遺跡の発掘調査はじまる。
1982	昭和57	11月1日	役場新北郷支所が完成する。
1982	昭和57	11月1日	役場新庁舎建設工事の起工式が行われる。
1982	昭和57	10月1日	第13回国勢調査。人口23,212人、世帯数6,217戸。
1982	昭和57	10月1日	小山町有線放送と消防署須走分遣所が、業務を開始する。
1982	昭和57	5月3日	金時まつりに武者行列が登場する。
1982	昭和57	4月16日	富士山をいつまでも美しくする会が発足。
1982	昭和57	4月16日	31億4千万円の大被害。
1982	昭和57	10月19日	台風20号襲来、3時間に19.1ミリ、死者1人、全半壊家屋6戸、
1982	昭和57	8月20日	小山町健康づくり推進協議会が発足する。
1982	昭和57	6月23日	第1回富士山クリーン作戦が行われる。
1982	昭和57	12月3日	足柄出張所に老人いこいの家が完成、オープンする。
1982	昭和57	11月13日	第1回富士小山マラソン大会が開かれ、441人が参加。
1982	昭和57	11月3日	第1回富士山クリーン作戦が行われる。
1982	昭和57	11月3日	手採み製茶技術の芹沢元治さんが、県無形文化財保持者に認定される。
1982	昭和57	7月5日	町民健康センターが設立される。
1982	昭和57	4月24日	小山郵便協力が設立される。



- ① 昭和57年 役場新庁舎完成
- ② 昭和57年 町民憲章除幕式
- ③ 昭和58年 元大関貴ノ花の藤島親方来町
- ④ 昭和61年 経団連ゲストハウス完成
- ⑤ 昭和63年 浩宮殿下が富士登山
- ⑥ 昭和63年 東富士五湖道路開通
- ⑦ 平成4年 総合文化会館完成
- ⑧ 平成8年 総合体育館完成

③	②	①
⑥	⑤	④
	⑧	⑦



1994	1993	1992	1991	1990	1989	1988	1987	1986	1985
平成6	平成5	平成4	平成3	平成2	平成元	昭和63	昭和62	昭和61	昭和60
6月23日	4月15日	8月1日	4月11日	2月14日	2月14日	11月18日	10月1日	3月29日	2月1日
9月1日	8月1日	7月1日	6月1日	1月27日	11月1日	10月26日	9月1日	4月1日	3月29日
8月1日	3月26日	3月20日	1月1日	10月25日	10月1日	9月2日	4月1日	3月24日	3月19日
12月21日	3月19日	3月24日	4月1日	9月2日	10月1日	10月25日	1月1日	3月20日	3月26日

竹之下太鼓が町の無形民俗文化財第1号に指定される。

宝鏡寺の木造地藏菩薩坐像が県の有形文化財に指定される。

御殿場高校小山分校が開校される。

静岡県立小山高校が開校する。

21世紀に向けての町づくり小山町総合計画基本構想を臨時議会で議決する。

第14回国勢調査。人口23,277人、世帯数6,294戸。

事務事業の効率化と省力化をめざす「行政改革懇談会」が発足する。

県の自然100選に、「明神峠のブナ天然林」と「金時山・乙女峠のブナ林」が選ばれる。

広域農道小山町分3・4 km全線が開通する。

東富士リサーチパークに経団連ゲストハウスが完成する。

柵頭工業専用地域20haの造成工事はじまる。

新商工会館が完成する。

ゴミ収集業務の北郷、須走地区分を民間委託する。

文化財のしおりの改訂版と再版を発行する。

柵頭工業専用地域として開発を進めていた富士小山工業団地が完成する。立地企業は18社に。

ハイテクパーク富士小山の造成工事が始まる。

東富士五湖道路、籠坂トンネルが開通する。

総合文化施設の基本プラン決まる。

休耕田を利用した家庭菜園がスタート。

浩宮殿下（現在の皇太子殿下）が須走口から富士登山。

医療問題協議会が発足。

小山町赤十字奉仕団を結成。

東富士五湖道路全線開通。

第15回国勢調査。人口23,566人、世帯数6,753戸。

小山町国際友好協会設立。

シルバー人材センター設立。

総合文化会館落成式。

富士フェニックス短期大学開校。

町制80周年記念式典挙行。

駿河小山駅前に観光案内所オープン。

小山球場、多目的広場完成。



- ①平成12年 健康福祉会館オープン
- ②平成15年 須走口観光案内所開設
- ③平成17年 富士SWリニューアルオープン
- ④国登録有形文化財「森村橋」
- ⑤国登録有形文化財「豊門会館和館・洋館」
- ⑥国登録有形文化財「豊門公園西洋館」
- ⑦平成21年 足柄小学校100周年記念式典
- ⑧中国海寧市高級中学生との交流

③	②	①
⑥	⑤	④
⑧	⑦	



西暦	元号	月日	記事
1995	平成7	3月28日	町立診療所が完成。
1996	平成8	10月1日	第16回国勢調査。人口22,780人、世帯数6,522戸。
1997	平成9	3月14日	総合体育館完成。
		10月7日	カナダ・ミシオン市と国際姉妹都市提携。
		2月1日	北郷中学校給食施設業務開始。
		3月2日	小山道場完成。
		4月1日	空き缶等ポイ捨て防止に関する条例施行。
		4月2日	山北町と災害時相互援助協定締結。
		4月9日	中山間地域総合整備事業が事業採択される。
		7月12日	小山町日中友好協会設立。
		12月7日	足柄駅前郵便局完成。
1998	平成10	2月9日	沖縄県道104号線越え実弾射撃の分散実施訓練が東富士演習場で始まる。
		3月26日	足柄駅前土地区画整理事業完成。
		4月17日	滝沢川砂防事業完成。
		4月22日	須走小・中学校共同給食開始。
		6月1日	竹之下地区で温泉掘削。
		12月25日	第二東名の御殿場～秦野間を整備計画区間に格上げ。
		12月25日	「小山町史」第8巻を発行(翌年2月発刊)し、全9巻が完成。
2000	平成12	4月1日	須走地区下水道一部供用開始。
2001	平成13	4月1日	健康福祉会館「ふじみセンター」オープン。
		4月3日	自衛隊富士病院一般開放。
		5月29日	足柄駅前クリニック開院。
		7月1日	富士山須走口五合目公衆トイレ開設。
		10月1日	第17回国勢調査。人口22,235人、世帯数6,530戸。
		8月13日	小山駅前郵便局が音洲商店街近くに移転し、金太郎郵便局として開局。
		8月1日	須走幼稚園落成式。
		12月1日	駿河小山駅駐車場オープン。
		4月2日	町制90周年記念式典挙行。
		8月1日	パークゴルフ場オープン。
		10月26日	富士山須走口観光案内所開設。
2004	平成16	11月25日	第58回わかふじ国体銃剣道大会が小山町で行われる。道の駅「ふじおやま」オープン。



①平成21年
ハウスポスト建立式

③	②	①
⑥	⑤	④
	⑧	⑦

②平成22年

駿河小山幼稚園開園

③平成22年 台風9号豪雨災害

④平成22年 人権野球教室に杉本正さん登場

⑤平成23年 平成の杜オープン

⑥平成23年 道の駅「すばしり」オープン

⑦平成23年 全国中学駅伝で小山中男子が9位

⑧平成23年 市町対抗駅伝で町の部3位入賞



2012

平成24

8月1日
5月18日
2月27日
12月18日
12月3日

2011

平成23

11月12日
4月26日
4月14日
11月7日
10月1日
9月8日

2010

平成22

4月1日
11月15日
10月25日
10月18日
2月20日
11月6日
7月8日
6月1日

2009

平成21

5月17日
3月15日
9月28日
4月19日
11月10日
10月1日
8月9日
4月1日
1月12日

2008

平成20

須走なかよし公園西側区域オープン。

2007

平成19

須走なかよし公園西側区域オープン。

2005

平成17

町民いこいの家「あしがら温泉」オープン。

町民いこいの家「あしがら温泉」オープン。
富士スピードウェイがリニューアルオープン。
農村活性化施設「ふじあざみ」開設。
第18回国勢調査。人口21,478人、世帯数6,669戸。
豊門会館和館・洋館、豊門公園西洋館、森村橋などが、国登録有形文化財に登録。
須走なかよし公園西側区域オープン。
F1日本グランプリを富士スピードウェイで約30年ぶりに開催。
小山町のB級グルメとして御殿場コシヒカリのおこげ「おやまあ！おこげ」発売。
ウォーキングイベント「オックスファム・トレイルウォーカー・ジャパン」初開催。
須走なかよし公園東側区域オープン。
松村家住宅主屋（須走）が国登録有形文化財に登録。
富士山ナンバ交付開始。
足柄小学校100周年記念式典挙行。
カナダ・ミッシン市からハウスポストの寄贈、建立。
第24回国民文化祭しずおか2009「民謡・民舞の祭典」を小山町で開催。
従来のハイキングコースを整備し、全長43kmの「富士箱根トレイル」開通。
駿河幼稚園と小山幼稚園が合併し駿河小山幼稚園となる。
農村公園「足柄ふれあい公園」開園。
台風9号に伴う豪雨により、町内に甚大な被害発生。
第19回国勢調査。人口20,629人、世帯数6,564戸。
明倫小学校開校100周年記念式典を挙行。
道の駅「すばしり」観光交流センターがオープン。
養護老人ホーム・特別養護老人ホーム「平成の杜」落成。
袋井市で開催された第19回県中学駅伝で、小山中男子駅伝部が初優勝。
市町対抗駅伝で町の部3位入賞の快挙。
山口県で開催された第19回全国中学校駅伝大会で、小山中男子駅伝部が県代表として初出場し9位。
デイサービスセンター「平成の杜」開所。
山岳レース「ウルトラトレイル・マウントフジ」を初開催。
町制施行100年を迎える。

議会と町政

議会

町民の声を行政に反映させる
大切な役割を担っています

議決機関である町議会は、町民のみなさんから直接選挙で選ばれた議員13人で構成されています。町政の重要なことを決定するために、年4回の定例議会のほか、必要に応じて臨時議会が招集されます。

また、町民に開かれた議会を目指すために、ホームページで会期日程や議員の一般質問内容、会議録などを公表し、さらに、「議会だより」を発行して議会内容をお知らせしています。

執行機関

将来像を見据えた
まちづくりを進めます

執行機関は、町の条例、予算、その他町議会が議決した事務などに基づき、町長を中心に執行している機関です。

議決機関である町議会と執行機関である町長は、それぞれ独立対等の地位にあり、町民の福祉の向上を図るためにお互いの役割を発揮して町政を推進します。

二つの柱として、車の両輪にたとえられます。町民の行政に対するニーズは、社会情勢の変化に伴い増大し、さらに高度・複雑化しています。今後も、行財政改革を推進し、効果的かつ効果的な住民サービスの提供と、町の将来像を見据え、「自主自立」「健康中心」「協働・共創」のまちづくりを進めていきます。



議長
まさる
まさる
さなだ
真田 勝



町長
まさひで
まさひで
こみやま
込山 正秀



副議長
なほひこ
なほひこ
たかしま
鷹島 邦彦



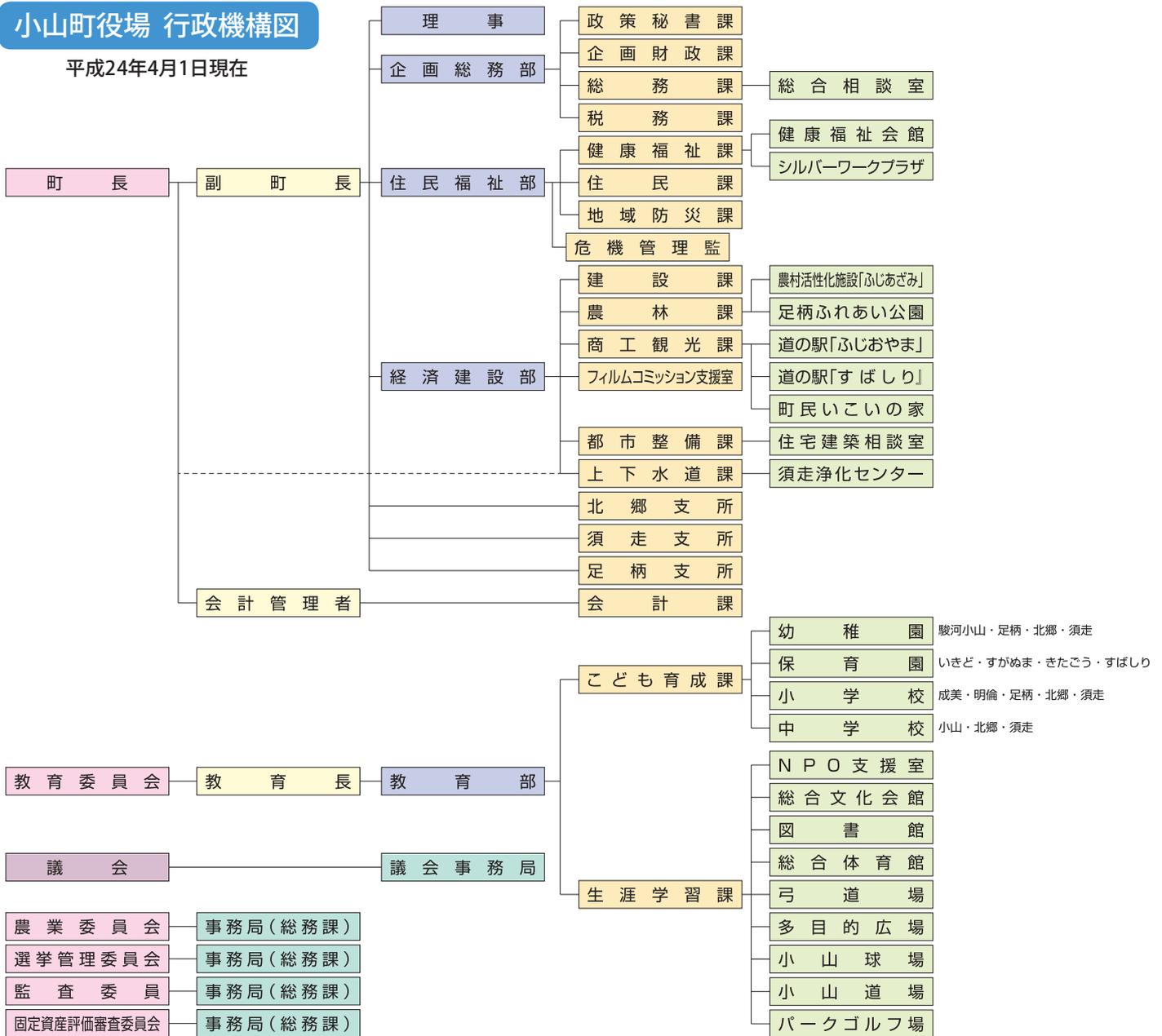
副町長
あきふみ
あきふみ
とむら
土村 暁文



教育長
ひろし
ひろし
とえだ
戸枝 浩

小山町役場 行政機構図

平成24年4月1日現在



姉妹町

岡山県 勝央町

1973年11月24日縁組

所在地：勝田郡勝央町勝間田201
TEL 0868-38-3111
HP <http://www.town.shoo.lg.jp>

小山町が坂田金時（金太郎）の生誕の地であり、勝央町が終焉の地であることから、昭和48年に姉妹縁組を結びました。

国際姉妹都市提携

カナダ ミッション市

(ブリティッシュ・コロンビア州)

1996年10月7日調印

所在地：8645 StaveLakeSt・Box20
Mission, BC V2V 4L9

TEL 010-1604-820-3700
HP <http://www.mission.ca/>
気候：平均気温 7月…23℃
1月…4℃

交通：バンクーバーから車で1～2時間
時差：日本と－16時間

国際友好交流都市

中華人民共和国 海寧市

(浙江省)

所在地：中国浙江省海寧市海洲路
行政中心

TEL 010-86-573-7025976
HP <http://www.haining.gov.cn/>
気候：平均気温 7月…29℃
1月…4℃

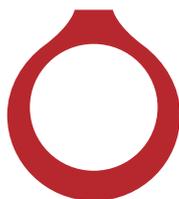
交通：上海から車で約2時間
時差：日本と－1時間



小山町民憲章

- 一 わたくしたちは、富士のもと、水と緑にめぐまれていることに誇りをもち、金太郎のように、健康で、明るい、ゆたかな町づくりをすすめます。
- 一 めぐまれた自然を愛し、美しいまちをつくります。
- 一 きまわりを守り、安全で、住みよいまちをつくります。
- 一 のびゆく力を育て、文化の薫り高いまちをつくります。
- 一 働くことによるごびをもち、健康なまちをつくります。
- 一 たがいに助け合い、親切で、あたたかいまちをつくります。

(昭和57年12月5日制定)



町章

一般公募により、昭和45年1月1日に制定しました。小山町のイニシャル“O”を基本にして、その頂点に町のシンボル富士山を配し、図案化したものです。富士、箱根、丹沢の連峰に囲まれた緑のオアシスを簡潔に表現し、その中に町民の力強い団結、希望、勇気を表しています。

町の木

ふじ桜

富士山麓に多く自生し、樹高は3～6mの小喬木で、小さな花をつけます。

花色は淡紅色で、ガクが赤味を帯びています。まめ桜とも呼ばれ、品種は多く葉が小さくて若木でもよく花をつけるので、盆栽に適しています。4月～6月にかけて、葉が伸びる前、一斉に開花します。



町の鳥

うぐいす

「ホーホケキョ」の鳴き声で知られる、春を告げる代表的な鳥で梅の木にとまっている姿は昔から絵の題材になっています。「ケキョ」の部分が富士山を境に西に行けば長く、北に行けば短くなるといわれ、中部地方の鳴き声をもっともよいといわれています。特に町内では須走地区に多く生息しています。



町の花

菜の花

10月ごろ、高うねにした田んぼに種をまき、富士山の温かく、きれいな伏流水で冬を越し、3月～4月に黄色い十字花を咲かせます。花はアブラナに似てやや小形です。また開花する前の2月～3月、柔らかい茎を摘み、塩漬けにして地域の特産物、水掛菜（とう菜）として各地に出荷しています。



富士のあるまち おやま

町制施行100周年記念 小山町町勢要覧

発行：静岡県小山町

編集：企画総務部政策秘書課

発行日：平成24年8月1日

印刷：エビスL L C



小山町制100周年